

国際理解と平和 I —戦争体験から—

川 田 基 生
原 順 子・薫 森 英 夫
大 林 直 美・岡 村 明

【抄録】 中学3年では国際理解と平和をテーマとし、前半は杉原千畝研究を軸に国際理解に重点をおき、後半は広島でのフィールドワークを中心に平和学習に取り組んだ。

【キーワード】 異文化理解 杉原千畝 平和学習 広島 フィールドワーク 被爆証言

I 学年テーマと目標

- 1 平和な世界をめざす上で、自分に何が出来るか考える。
- 2 調査研究から現代史への理解を深める。
- 3 異文化に対する理解を進展させる。
- 4 グループでの学びの豊かさを体験する。
- 5 書籍、インターネット等による情報検索に習熟する。

II 学習方法と指導体制

- 1 従来のグループ学習に加え個人研究に取り組ませた。
- 2 被爆証言、毒ガス製造体験講話等、体験談の聞き取りを重視した。
- 3 グループのテーマ設定、フィールドワーク目的地選定、質問事項等を生徒の討論で決定。
- 4 少人数のグループに対し教員が年間を通して助言する体制をとった。

III 学習の経過

第1回 オリエンテーション

目標、年間予定の提示

第2回

INTERNATIONAL UNDERSTANDING and PEACE

英語科教員によるプリント学習

Part 1 日本と世界の地図を白紙上に描こう！

Part 2 平和と国際理解のための基礎知識

憲法の原則 非核三原則 国際連合 日本の国際関係史(大和王権の成立前後～) 中立国 日本の防衛 予算 領土問題 武器輸出 国際貢献実績

遠足 杉原千畝記念館 岐阜県加茂郡八百津町

事前学習事項

・杉原千畝の略歴

- ・杉原のユダヤ人への対応の背景
- ・ユダヤ人がリトアニアに流れてきた理由
- ・日本領事館が選ばれた理由
- ・日本政府がビザ発給を渋った理由
- ・ユダヤ人の目的地

第3回 異文化体験の実体験

シミュレーション・ゲーム「バーンガ」

- 1 ルール用紙配布 以後無言 ゼスチャーのみ
- 2 トランプゲーム
- 3 1グループ6～7名 12グループ
- 4 ルール用紙はグループごとに微妙に異なる。
- 5 一番勝った人と一番負けた人は逆方向に異なるグループに移動。
- 6 移動先でルールが似ているが違う状況に遭遇するが、無言が義務づけられている。
- 7 ゲーム後 全般の感想を聞き、どのように振舞ったか、ルールの確認、統一への努力について考えさせる。

第4回 広島・長崎の原爆体験

講話① 「長崎での被爆体験」

講話② 「岐阜での空襲体験」

(企画担当者が今年度海外勤務となり、講師との連絡がとれず、御名前と内容の紹介を留保)

第5回 グループワーク「日本を動かそう」

平和を目指すリーダーになったつもりで解決方法を探ろう！

- テーマ1 地域主義 アジアのリーダー
- テーマ2 対テロ対策 軍隊や情報機関が機能しない状況
- テーマ3 核廃絶
被爆国と米国の核の傘
- テーマ4 憲法問題 戦争の放棄と国際貢献
- テーマ5 自分たちで問題を選ぶ

模造紙に図式化
代表者による報告スピーチ

テーマ 広島のと昔の教育の違い
訪問先 広島平和教育研究所
広島市東区光町

第6回 現代史 1945年

- 1 原爆投下前後の史実
- 2 個人研究テーマ 第一次提出

3班 目的 被爆者から見たいろいろな復旧を知る
テーマ 被爆者から見た復旧の様子
訪問先 N H K広島放送局
広島市中区大手町
広島平和記念資料館
広島市中区中島町 1

第7回 広島研究グループ結成

- 1 研究テーマ討論
- 2 フィールドワーク先検討

第8回 広島事前学習

- 1 フィールドワーク先決定
- 2 訪問先の受け入れ許可取得連絡
- 3 質問事項まとめ
- 4 テーマに即した事前学習

4班 目的 大和の乗組員、市民などから戦争の悲惨さ、平和の大切さを考える
テーマ 映画「大和」を通して平和を考える
訪問先 大和ミュージアム
広島県呉市宝町

第9回 広島フィールドワーク準備

- 1 行程表作成
- 2 質問事項確認
- 3 平和のリボン¹図案検討

5班 目的 外国人と日本人との意見・考え方の違い
テーマ 日本と世界の視点から見た第二次世界大戦
訪問先 広島留学生会館
広島市南区西荒神町

第10回 事前学習発表会

- 班ごとに
- 1 テーマについて
 - 2 行程について

6班 目的 戦後の広島市の復興を知る
テーマ 0からのスタート
～都市の復興～
訪問先 袋町小学校平和資料館
広島市中区袋町広島市役所都市計画課
広島市中区泰寺町

第11回 広島旅行

(1)旅程

平成18年11月9日(木)～11日(土)

- 9日 名古屋駅 8:34—
広島駅 10:51 平和公園内
原爆の子の像前で平和セレモニー
碑めぐりツアー 平和祈念資料館見学
夕食後宿舎にて被爆体験講話
- 10日 フィールドワーク ～14:40
忠海経由 大久野島2番桟橋
- 11日 大久野島毒ガス資料館見学
村上元毒ガス資料館長より講話

7班 目的 今の教育と比較する
テーマ 戦争中の教育について
訪問先 広島平和教育研究所
広島市東区光町

8班 目的 アメリカ人は広島・長崎の原爆についてどう思っている
テーマ 外国から見た原子爆弾
訪問先 本川小学校
広島市中区本川町
広島YMCA
広島市中区八丁堀

(2)フィールドワーク

グループ別 研究の目的 テーマ 訪問先

- 1班 目的 世界遺産から平和を学ぶ
テーマ 宮島と世界のつながり
訪問先 厳島神社
広島県廿日市宮島町
- 2班 目的 広島を学び、それを国際理解につなげる

9班 目的 戦後、広島を平和教育がどのように変化したかを調べる
テーマ 平和教育について・・・
訪問先 広島市役所
広島市中区泰寺町
袋町小学校

広島市中区袋町

- 10班 目的 被爆者の健康保持と福祉を通して被爆者の気持ちと現在の福祉を考える
- テーマ 被爆者の健康保持と福祉
- 訪問先 放射線影響研究所
広島市南区比治山公園

- ・高慢さと欲望がさまたげに
- ・アメリカのやりかた
- ・お互いが理解しあえていない。
- ・戦争と貧困・自分を客観視できない現代人と武力によって安定を求める社会状況
- ・“自分だけ”の利害関係
- ・差別
- ・誤解と復讐
- ・今の政治家

第12回 資料整理 研究集録の原稿作り

第13回 グループ発表準備

第14回 グループ研究発表会

第15回 1年間のまとめ アンケート

4 「グループでの学びの感想は？」

- ・みんなが知りたいことがばらばらで、なかなかまとまらなかった。
- ・テーマが早く決まりすぎた。もっと話し合うべきだった。
- ・自分の考えを伝えるのはむづかしかった。
- ・雑談が多かった。
- ・最初は話し合いになってなかったが、しだいにできるようになった。
- ・どんどん横道にそれることもあるが、思わぬ意見に驚くこともあった。
- ・むずかしいテーマを決めて、フィールドワーク先がなかった。
- ・みんながどんな興味を持っているか知れた。

Ⅳ 生徒の取り組み（・生徒の発言）

1 「平和な世界をめざす上で、自分に何が出来るか」

- ・きっと一人一人がみつけることができたと思います。正しいかは分かりませんが、考えることが大切だと思う。
- ・一人一人の意識で変わる！
- ・何が出来るのか、今でも良く分かりません。
- ・自分自身で考えるようになった。
- ・それを考えること自体が平和な世界につながると思う。
- ・始めは漠然としていたが、いざ調べてみると「こんなことが起こっていたのか」とか本気になった。知っていくことならできた。
- ・じっくり考えたと思う。
- ・大切なことだと思う。
- ・今はたくさん学ぶ。
- ・難しかった。
- ・皆が深く詳しく考えることができたと思う。
- ・自分と仲間が協力することによって。
- ・決して大きな事はできない。今できることは、学ぶことだと思う。

2 「現代社会の形成の要因は？」

- ・日清戦争 日露戦争 第二次大戦
- ・冷戦
- ・中国侵略
- ・終戦
- ・科学の進歩 私欲の増大・戦争→復興→高度成長
(回答：少数)

5 「情報収集に役立ったのは？」

- ・インターネット
- ・先輩の研究集録
- ・本 特に新書
- ・フィールドワーク先からの情報

6 「印象に残ったのはどんな助言？」

- ・「自分がやりたいことをテーマにしないと、途中でやる気がなくなる」。先輩から
- ・フィールドワーク先で「戦争は必ずなくすことができる」。
- ・「ひとつの国にもいろんなかんがえがある」。キャロラインさん
- ・「誰かがまとめないと進めない」。
- ・広島でのアンケートを先方から断られたときの先生の助言・説明
- ・「みんな次の世代の子供たちに伝えてほしい」。被爆者の言葉
- ・「あなたたちの質問はアメリカ人が答えるのは苦しい」。
- ・「お断りしたい」。フィールドワーク先の候補地の学校の先生から。断られたのは初めてなので。

3 「異文化に対する理解の困難さはどこからくるのか？」

V 一年間の総合人間科の探求で得たものは何ですか? (「生徒作文」)

(1)被爆証言を聞くことの重要性

「やはり広島に行ったのは良かった。現地じゃないとわからないことがたくさんあった。実際に見たり聞いたりしないとダメだ。インターネットや本だけでは原爆の恐ろしさ、広島の意味った苦痛、想像をこす悲しみはわからない」。

(2)答えのみつからない問い

「・・・知識がついたとともに、考える力もついた。ずっと「答えがみつからない問題」なんて考えるだけ無駄だと思っていたけど、そうじゃないと思えるようになった」。

(3)視点

「ある一定の視点から物事を見ていてはダメだと思った」。

(4)表現力

「調べたことをもとに自分の言葉でどう表現するか」。

(5)グループ研究と個人研究

「グループでは「被爆者の福祉」個人では「原子爆弾の理論と構造」というテーマで調べて、原爆によっていまだに苦しんでいる人がいて、そういう人へどういう態度を取るべきなのかを学んだ。また、原子爆弾を科学の面から見ることにより悲惨さがよりリアルに伝わってきた。そんな中で「今、自分にできること」を少しでも考えたことが一年間の大きな成果だと思う。

(6)大事なことはちゃんと考える

「戦争とか平和とかすごく重いものだし、勉強するってことがヤダなって思っていた。だけどやっていくうちにヤダとか言えなくなって逆にもっと知りたくなった。苦しかったり、涙出そうなくらいひどい内容とかあったけど、そういう昔本当にあったコトとちゃんと向き合わなきゃいけないことがわかった。だから『どんなめんどろなコトでも、大事なコトはちゃんと考える』っていう考え方を得たと思います」。

VI 生徒による学年全体、他の生徒の研究に対する評価

5段階評価とコメント 1クラス 37名

☆☆☆☆☆ 27% 10人

コメント・みんなでやりとおせた。・みんながんばっていた。・内容が詳しかった。・自分の班よりいい発表ばかりで減点できない。

☆☆☆☆ 35% 13人

コメント・資料を上手に使っていたが、発表の声が小さい。・まだまだいける。・それぞれしっかりした内容だが、締め切りを守れない。・もっと時間がほしい。

☆☆☆ 14% 5人

コメント・締め切りに遅れすぎ。(3人)・協力できたけど、少しいいかげん。・グループ研究の取り組みが減点理由。

☆☆ 3% 1人

コメント・テーマがありきたりすぎた。もっとおもしろいテーマがあつていいと思う。

☆ 0% 0人

無記入 21% 8人

¹ 平和のリボンについては本校紀要

名古屋大学教育学部附属中・高等学校紀要 第51集
27頁参照